

身近な地質スポット

愛知県知多郡美浜町／「 礫ヶ浦礫岩層 」

知多半島南部の内海、礫ヶ浦（ツブテガウラ）では、この地域には珍しい礫岩の露頭が観察できる。これは中新統師崎層群山海累層下部層で、直径2cm～2.5m、変成岩の角礫を主体とする礫ヶ浦礫岩である。師崎層群は漸深海域に堆積した地層であり、山間溪谷と違い径2.5mの礫はめずらしい。では、どのようなプロセスでこのような巨大な礫を含む地層が形成されたのでしょうか。昔の人も不思議に思ったのか、礫ヶ浦にはこんな神話が言い伝えられています。

” その昔、神々が伊勢の地より力比べで、伊勢湾を挟んだ対岸の内海に石を投げて遊んでいました。踊りの上手な万幡秋津姫命の投げた石は対岸に届かず海に落ちました。天照大神が投げた大岩は知多の山まで達し大地震を起こしました。力自慢の天手力男は大岩を振り回し投げるも山までは届きませんでした。農業の神、豊受大神は小岩を一度にたくさん投げ、内海の海岸に散らばりました。”

神話のとおり海岸には巨石がいくつも点在します。2.5mほどの巨石の前には鳥居が設置され、伊勢まで行けない人々が、ここから対岸のお伊勢さんにお参りをしたそうです。

礫種はほとんどが片麻岩であり、伊勢地域の岩盤と同種で、知多半島地下の領家帯の基盤岩類とよく似ていることが報告されています。野間から師崎の沖合には長さ17kmの内海断層があります。その断層運動に伴い、基盤岩の高まりから岩石が崩落し、地すべり堆積物起源の礫岩として形成された可能性が高いそうです。これで巨礫、角礫が多いことに納得がきました。

礫周囲の砂岩には波状文様が見られます。西南日本弧が回転し、日本海が拡大したころ、海底200m～300mの海底より隆起してきた珍客です。

礫ヶ浦は、周辺の海岸とは趣の違った風景を見せてくれます。



写真-1 礫ヶ浦の風景



礫岩に挟まれた砂岩

礫は角礫がほとんど。
礫径はさまざま。φ5mm～2500mm
走向傾斜：N30W・20N
成層状況が鮮明に確認できます。

写真-2 礫岩の堆積状況

余談ですが、

この地質スポットの近くにはこんなお店がありました。

灯台ラーメン



場 所: 愛知県知多郡美浜町野間字中町26

営業時間: 11:00~22:45

定休日: 水曜日

味噌、醤油、塩、とんこつラーメンのほか、サイドメニューも豊富。
ラーメンのトッピングが選べ、自分好みにカスタマイズ。
野菜がたくさん入ったボリューム満点のラーメン屋。



国道247号を内海に向かって南下。
若松海水浴場の入口付近。
真っ白い灯台が目印。
南下より北上の方が分かりやすいかも。



看板メニューの「灯台ラーメン(味噌)」、ランチを付けて1,080円
野菜を豊富に取れてヘルシー。
味噌はピリ辛、麺は中太縮れ卵麺でうまかった。